

藤樹人間学塾… 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に藤樹思想を学ぶとともに、今日的意義を自分の頭で考え、仲間と議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月原則第一土曜日の午後、開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

高島藤樹会の活動

九月一日（土）、第85回人間学塾を安曇川公民館で開催しました。はじめに八月十八・十九日に尼崎で開催された実践人全国大会に三百四十人が参加され盛会であった話をしました。

次に、『中庸解』の中の「子曰く、中庸はそれ至れるかな。民よくする少なきこと久し・・・」の項を学びました。大意は「中庸は最高の道徳であるが、それをよく行っている者は稀である。その理由は、知者は謙虚にならなければ本物にならない。愚者といえども心に元々純粹な心を持っているので、それを磨けば中庸に至ることができる・・・」。



意見が出ました。

十月七日（日）、第86回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

はじめに九月に孔子の故郷曲阜（きょくふ）を訪問した話をしました。曲阜市では人々が街をあげて孔子を顕彰し来客を歓迎しているの、年間五百万人も人が訪れています。高島市も市民ももっと頑張らなくちゃ……。

そして『中庸解』の中の「子曰く、道はそれ行われざるかな・・・」の項以下を学びました。大意は、舜のような聖人は天と繋がっているの、道（道徳）を行うのは容易であるが、学問を修養する一般の者は自慢の私意（慢心）が邪魔をするので、それを取り除かねばならない。

フリートーキングでは、中庸とは物事の中ほどという意味ではなく、学んで高い見識を身に付けて初めて理解し、実行できることが分かった

等の意見が出ました。

十一月三日（土）、第87回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

『中庸解』の中の「子曰く、人みな我知ありというが、禍根伏在（かこんふくざい）しているのに茫然としてこれを覚らず・・・」の項以下を学びました。大意は、人は自分の知を優れているものとしてそれ以外に知を求めないが、真実の知は才知ではない。中庸の道こそは日常生活の中にあり、天地人に通じる最高の知である。智慧があるなら中庸を選ぶべし。

フリートーキングでは、街の清掃について、ボランティアの方が楽しみながらされている。小中学生に半強制的に掃除をさせて、街がきれいになり喜ばれる経験させるとよいのではないかと等の意見が出ました。

十二月三日（土）、第88回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

最初に「カルロス・ゴーンの高額報酬隠ぺい事件」と「奈良のまるかつ無料食堂」を対比して話しま



した。次に『中庸解』を学びました。人間のなし難いものが三つある。①天下国家を治めること、②高い地位や高収入を辞す

ること、③命を投げ出して進むこと。「中庸の道」は意を誠にし独を慎むことなので、簡易であり平和なものであるが自利の心がはたらくのでほとんど実行されない……。

これを実際に行った人がいました。西郷隆盛です。彼は「命もいらぬ、名もいらぬ、官位も金もいらぬ人は始末に困るもの也。この始末に困る人ならでは艱難を共にして国家の大業は成り得られぬなり」と述べ、実践しました。大河ドラマ「西郷どん」でもそれがよく出ていました。まさに彼は『中庸』を人生の指針にしていたのです。

フリートーキングでは、「ゴーンのような自利優先の考え方が広まっていることを危惧している」、「この塾の考えを市内に広げていけば高島は全国に誇れる地域になると思う」、等の意見が出ました。

塾の後は、場所を替えて懇親会を行いました。

この塾に関心のある方は是非覗いてみてください。お待ちしております。

「藤樹人間学塾 今後の予定」

- ◆ 1月5日（土）、2月2日（土）、3月3日（日）、4月6日（土）、5月11日（土）、6月1日（土）、
- ◆ 日時 15時～17時（原則）
- ◆ 場所 安曇川公民館
- ◆ ◎印は塾を終了後、別場所で懇親会あり